

監修の序

今回、本書、「食道・胃・十二指腸ESDの基本とコツ」の監修を依頼された。

以前、羊土社より、ITナイフに特化した、「症例で身につける消化器内視鏡シリーズ・食道・胃ESD改訂版～ITナイフによる部位別・難易度別の治療戦略」という技術書を編集し上梓したことがあるが、今回、新たな編者により同書の精神を引き継ぎつつも、本書は生まれ変わった。

監修は非常に重要なポジションである。企画内容の打合せ会議やメールのやりとりでは「お任せします」の6文字で済む。まあそれは半分だけ冗談だが、ほとんど口を出す必要もなかった。気鋭の編者たちは皆さんよくご存じの消化器内視鏡分野の第一人者であり、大いなる熱をもって、章立て、執筆者選定、clinical questionなどを議論のうえ作成・決定し、読者の役に立つ書籍をとの思いで本書を作り上げた。私もすっかりリニューアルした本書を一読し、「ほう、なるほど」と思うところがいくつもあり、また基本的な機器の取り扱いなども改めて理解したところも多い。

ITナイフ以外の先端系デバイスについても触れていることも前書との違いであろう。私の持論は、「ちゃんととれれば、何を使ってもいい」であり、つねづね同僚や後輩たちにも公言している。尤も「ITナイフでほとんどとれるから、ITナイフと針状ナイフがあればいい」ともパウハラにならない程度に指導している。編者が監修者としての私の意を汲んでくれてくれたかどうかは、ぜひ本書を手にとって、内容を確認していただきたい。

ESDはすでに普遍的な手技となり、多くの内視鏡医が行っていると思うが、そのような状況だからこそ、本書のような基本から具体的なコツまで載せた技術書が、読者にとって有用と信じている。

2022年4月

静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科部長・副院長
小野裕之